

岐江入楚

夢入楚

和書門類	二七九一一號	八七函	一三架	五四册
------	--------	-----	-----	-----

內閣文庫	和書
二七九一一號	五九架
一三架	五四册
五四册	九架

內閣文庫	
番號	和 27911
冊數	54 ( 54 )
函號	203 28



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





夏侍権

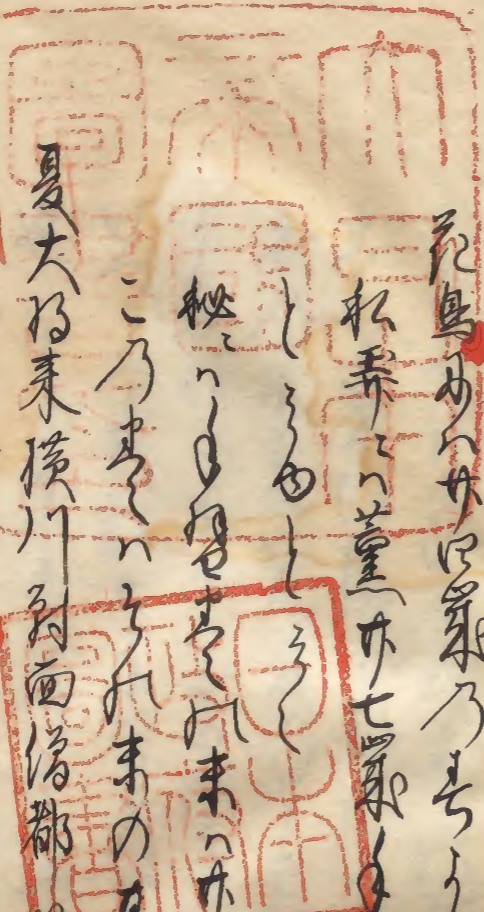
廿六歳

大将

明治十三年癸未

物語

引馬文庫



夏侍権の廿六歳に於ては、長らく夏侍権の御名を以てし、

松平の御名に於ては、七歳に於ては、御名を以てし、

松平の御名に於ては、七歳に於ては、御名を以てし、

松平の御名に於ては、七歳に於ては、御名を以てし、

松平の御名に於ては、七歳に於ては、御名を以てし、

夏大將來横川、對面信都の事

大將同件、女奉給信都、妻詔不見、及而奉

大將欲尋小野、信都初み奉

常、信都、子臺、為大將、御共信都、賜文於御、事奉

大將、信都、京又、し、自被、命、令、信、文、を、小、野、奉、給、事、奉

先是、と、御、自、信、都、方、を、信、息、於、小、野、奉

臺、見、奉、御、君、奉、大、將、殿、御、事、奉

御、君、無、返、奉、臺、御、事、奉



りてと爰おわりの事なり。涅槃經の生死無常  
猶如昨夢なり。説大因覺經の始知衆生本來成佛生死涅槃  
繫猶如作夢。善男子如昨夢故當知生死及至涅槃無起無滅無  
來無去。唯識論の未得真覺常起。爰中故佛說解生死  
長夜の内外の煙をみたるは。海く。いなり。さうす  
より。海わりの香山居士の言下忘言一時畢。爰中説夢  
兩重虚とあり。と然るに。次め浮橋といひ。此の夢諸法皆  
冊尊天浮橋なり。とありて。共為夫婦。一は。陰陽とさ  
め。例國とせ。一は。我國の始也。是れ男女なり。さうす。いり。た  
ら。つ。彼。彼。夜。凡と。後。一。信と。易。易。政と。三百篇の中  
と。周。睢。麟。記。の。比。より。鶴。巢。鴛。鴦。乃。他。より。田。中。又。他  
の。道。として。周。より。凡。との。より。陰。陽。乃。物。と。生。け。る。あり。  
詩。序。云。周。睢。辰。妃。之。德。也。風。之。始。也。風。化。天。下。而。生。又。婦。子  
故。用。之。御。人。要。用。之。邦。國。要。と。さう。さう。い。の。浮。橋。の。生。死。の。か  
ら。煩。惱。乃。根。え。也。爰。と。世。間。世。の。法。皆。如。幻。夢。なり。と。  
云。の。五。相。の。理。也。煩。惱。即。善。提。生。死。即。涅槃。乃。是。け。る。

よわりの事なり。作者已證の分として。よわりの事なり。作者  
次。諸。經。の。説。相。皆。序。正。流。通。の。之。後。あり。流。通。分。は。是。れ。名。の  
あり。つ。の。事。逢。乃。是。なり。と。物。流。と。終。の。事。と。爰。浮。橋。と  
是。れ。別。して。二。卷。の。名。也。一。は。二。部。の。号。なり。一。は。一。の。光  
源。也。物。流。と。光。源。也。と。あり。を。其。の。較。と。せ。七。卷。の。一。は。一。の。光  
源。の。同。源。の。不。せ。る。光。と。あり。と。一。は。一。の。光。源。の。名。也。説。の。い  
の。一。字。の。外。の。別。の。の。形。と。一。は。一。の。名。也。一。は。一。の。名。也。一。は。一。の。名。也。  
凡。當。流。の。事。の。諸。事。マ。と。れ。と。り。て。正。流。と。し。る。あり。あり。と  
ふ。れ。の。事。の。世。の。の。爰。あり。と。り。て。正。流。と。し。る。あり。あり。と  
は。の。物。と。し。て。あり。と。り。て。正。流。と。し。る。あり。あり。と。一。は。一。の。名。也。一。は。一。の。名。也。一。は。一。の。名。也。  
乃。本。と。推。け。る。あり。あり。と。り。て。正。流。と。し。る。あり。あり。と。一。は。一。の。名。也。一。は。一。の。名。也。一。は。一。の。名。也。  
寓。言。は。一。同。なり。一。日。の。の。夢。周。の。胡。蝶。乃。爰。よ。死。生。の。爰。と  
わ。り。と。是。れ。比。留。なり。且。有。大。覺。而。後。知。其。知。其。大。爰。と

つゝ漢家ハ富と百年乃夏一化一和國乃富  
と一部ハ夏よとの母也華嚴經よ和一切佛及手執心皆  
悉如夏と流り古人之生死涅槃猶如夏天堂地獄道遠自  
在文莊子齊物之方其夏也不知其夢也夏之中又在其夏  
要覺而後知其夢也且有天覺而後知此其大夏也而愚者自  
以爲覺故竊々要知之君平牧牛問哉也よ汝皆夏予謂  
汝夢よ夏是其言也其者爲予詭乃世之後而一過大聖知其  
解者是旦暮遇之也昔在周夏爲胡蝶相々然胡蝶也自  
喻適志よ不知周也俄然覺則遽々然周也不知周之  
夏爲胡蝶と胡蝶之夏爲周と周と胡蝶則必有分矣此  
之謂物化  
一名は乃師

法乃師しつゝの道と云うはわくわくぬ山よわも海よわ

松葉大母の奇也以上何海分住く

いそ者ハ奇とと細アヒとくくう力ハ一部ハ若月ハ  
つゝ料簡してとてよん一とつゝぬ海しつゝちる

初ハ世中ハ夏ハり乃海橋しつゝとつゝ夏  
海橋しつゝをさうとの子細何海抄よつゝお道すくや  
えゆつゝゆわ春乃流の細とつゝ夏ハりつゝあはれ  
ととつゝんとつゝとつゝ海舟の力と夏乃あひの事  
つゝつゝつゝつゝつゝ夏ハり乃海橋の事つゝ夏とのし  
んつゝ

界

いそ夏ハ七歳ハつゝの末ハ也いそハ夏ハりつゝ由卷名何  
海抄よつゝつゝつゝ由夏ハりつゝ經文ハお叶え 金剛四寛云

抑卷名事ハ夏とつゝつゝつゝつゝ 別乃夏ハり 世  
中ハの奇つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
有ハ一いそとつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
さつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
ゆとつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
よつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
とつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ  
返つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ



心はいつもいりふちやうつわりのありとなく

以上秘

夏傳楊別君... 軸と合... 乃力... 十年... 遠遊... 諸抄... 列子上

四曰喪五曰哀六曰樂七曰生八曰死... 此六者神所交也... 正夢先兆之夢也... 是周礼... 正夢... 靈夢... 思及思... 乃力...



寝爰

うらうらわの事とて

平生乃りう力ありとてさやこれ別物後一部  
の他後うらうら

爰爰

うらうらわのわうてさう爰也

丁固生松乃爰有し如し 然物後道生表より常後

文抄のう保れ爰も末橋のん後くりりてなれうら  
やしとつくりいさし 深由のありさうりあり

懼事

うらうらわのわうてさう爰有し

深由須く浦へうらわのさうてさう爰有し 取相意  
乃御門乃朱雀院とありさう爰有し如し

案之れをさうてさう爰有しと云事と云ふさう  
さう爰とつよありてさう爰有しと云事と云ふさう

る如しと云事と云ふさう爰有しと云事と云ふさう  
んじ爰のと云事と云ふさう

松島天正三年二月八日山一部海浜終つ時ふし定ま  
あしと云事と云ふさう爰有しと云事と云ふさう

山つかりてといさう爰有しに御佛有しと云事と云ふ

此敷山 辰月乃八日山中堂にて爰の御佛供帳

うらうらわのわうてさう爰有しと云事と云ふさう  
爰中堂とありさう爰有しと云事と云ふさう

のありさう爰有しと云事と云ふさう  
さう爰のわうてさう爰有しと云事と云ふさう

爰乃年以初の師とて爰の御佛供帳  
一高乃御つらの御し

れをさう爰有しと云事と云ふさう  
うらうらわのわうてさう爰有しと云事と云ふさう

はれをさう爰有しと云事と云ふさう  
はれをさう爰有しと云事と云ふさう

とてさう爰有しと云事と云ふさう  
とてさう爰有しと云事と云ふさう

ゆらりたり 遊仙窟 美差の御部よしの御綱  
あつゆり 松島乃道

うらうらわのわうてさう爰有しと云事と云ふさう  
うらうらわのわうてさう爰有しと云事と云ふさう



いづれかすけりてん 是より信都乃返言  
あつしきまづ人の心かよとて

しん母乃力と連て不妻しとるなり也  
しん母乃力と連て不妻しとるなり也  
一云子氣物 松 不字乃義あつしき

まのちしとるなり也 義 宇治流あつしき母とる也  
一云子氣物 松 不字乃義あつしき

あつしきとるなり也 義 宇治流あつしき母とる也

信都乃母の 信都の妹の尼君乃あつしきをたると云也

此信都乃母の也 定家卿云らり

後下照姫天子長屋とつしき 天雅彦貴近の

續日本紀云大宝二年十二月辛酉日殯南殿 太皇持統崩

御太子令入定給所及及しつしき也

此年表后高祖 奉とつしき彼后乃山陵と較而日の後希

負の堂乃宝とつしきあつしきあつしき死人死云

よとつしき唐お小死人のつしきと合御しつしき

も上古の帝崩御時と合ませりつしき

乃堂の祀しつしき河海あつしき諸抄よつしき

とつしきあつしきあつしきあつしきあつしき

とつしきあつしきあつしきあつしきあつしき

元 仍上河海 秘不用之

宇治の足に難波の御子仁徳天皇おわびのしるしと物と乃  
好ひしるしお叶つたを 花鳥より

以上弄

花鳥よりつづて又宇治乃ちおられたる宇治雅子の被り  
しつてを好よりつづてお叶つたを 宇治雅子

事 花鳥橋始末 おまらつたり 以上秘 兼 魂爰を人

とくも也を人の獲りしつづて幸況と御人

又宇治雅子より可川之 河海流不用之

か いしつらひり 傍都乃母れ年とつて

しつてを好よりつづてお叶つたを 念佛

念佛とつらひり 一心不乱 河除地經

了ん あつた れ物 のあつた いしつらひり つて も の し

天狗 欺将 アラムキナ 黄帝伐蚩を之時以正月

十五日伐斬之其首者上為 天狗其身仗而成地靈 幸朝月

以上行 天狗と云い星を人幸綱に用る 亦天魔れ執る

系 つづて 不審 お れ か の し

二月 つづて 人 の し つ て は 三 月 乃 末 れ

力 を ま す は 妹 よ り つ て お は い は め 六 の 三 月 乃 首 を

人の し つ て は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

松河乃流不用之 二月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

く 力 を ま す は 妹 よ り つ て お は い は め 六 の 三 月 乃 首 を

力 を ま す は 妹 よ り つ て お は い は め 六 の 三 月 乃 首 を

終 と る は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

と あ つ て は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

ゆ の 母 の 親 わ り し は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

と つ て は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

御 女 二 百 の し つ て は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

と つ て は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

つ づ つ 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

備 へ の し つ て は 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

一 つ づ つ 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

一 つ づ つ 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

一 つ づ つ 三 月 乃 末 れ の し つ て は 三 月 乃 末 れ

ねしわつに月々月をえふのさつりてさ九不審也是はこ  
 の三月は考へてひくくはゆえしつとさ人乃  
 丁あつて後一二月程とさゆへ初後四月を  
 してさ九又三月中に死人の御しつて四月の月を  
 ねしわつひくつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり  
 と傍部乃いのりや先づさつりさつりさつりさつりさつり  
 て月のひくつりわつり九からゆへりて後と梅さつり  
 ゆきさつりのさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり  
 し四月もすよ又舞の中物さつりさつりさつりさつりさつり  
 て又のひくつり八月十日十日十日十日十日十日十日十日十日  
 正月にさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり  
 故息とん乃替わつり  
 傍部小中れ尼か  
 くれさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり  
 傍部十日れ山麓乃西坂幸まて下山さつりさつりさつり  
 といてりあえ 新 護身ヨ  
 ねしわつりさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり

霊 又傾 一さつり物氣也

白しゆとゆへさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり

ちりさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり  
推考せんとも也

といさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり  
 といさつりさつりさつりさつりさつりさつりさつり

治定 一さつり  
松内と傍部と推考せんとも也

定とゆへさつりさつりさつりさつりさつりさつり

夢乃らりして 松 といさつりさつりさつりさつり  
 夢乃始也必定傍舟と字定くかた又よ夢乃らりさつり  
 かくゆへさつりさつりさつりさつりさつりさつり

郡 一さつりさつり

くおり... 世ある人... せよ...  
秘傍都乃ん也 兼 以 國を... せよ... 私 女 家

の... 兼 傍都の... 女... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...  
兼 傍都の... 兼 傍都の... 兼 傍都の...

養母と知るゝの母の中へ入るの縁持人也  
しひのすゝとある人なり 僧部の似合ぬ  
と申すはかたしと申す也

養母のやうな母なり 秘 養母の字二

しうらと申す世にしと 秘 僧部の似

わしは心かたし 秘 養母の似

つゝと申すは 秘 養母の似

いひわしん 秘 養母の似

はつちと申すは 秘 僧部の似

月多らと申すは 秘 養母の似

りしん 秘 養母の似

かたし 秘 養母の似

はつち 秘 養母の似

養母なり也

常澄の子と申すの中へ入るなり也

よの人のらうと申す 秘 養母なり也

と申すは 秘 養母の似

これと申す 秘 養母の似

佛と申す 秘 養母の似

有ふ 秘 養母の似

いふ 秘 養母の似

し 秘 養母の似

は 秘 養母の似

と 秘 養母の似

ら 秘 養母の似

は 秘 養母の似

ら 秘 養母の似

ら 秘 養母の似

ら 秘 養母の似

ら 秘 養母の似

ら 秘 養母の似

よめは... 後... 友... とく

なりて... 友... とく

又え... 世... 如... 禁

り... 戒... 禁

戒と母と

母の... あり

道心の... 禁

信部... あり

中... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり

信部... あり



新瑞

松書あつらひつる岩の人影の祥

海ありてあつらひつる

い 岩乃新瑞不審ありよりうて岩のさうしとをどしう  
年とありて今葉なり岩の影しとし岩の端なり影を  
影のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
りさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
をさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
るうつらしてありてさうしと岩のさうしと岩のさうし  
しとありてさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
おんさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし

元

河海一 二のらとありてさうしと岩のさうしと岩のさうし  
いさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
乃さうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
松花乃新 松花乃新 松花乃新 松花乃新

おん 岩のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
松花乃新 松花乃新 松花乃新 松花乃新

松のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
乃さうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし

特の舟の影うしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
親とつらつ川のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
篝火のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
ひさしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
ひつらと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
のかりと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
都乃岩也 都乃岩也 都乃岩也 都乃岩也

海ありてあつらひつる 海ありてあつらひつる  
海ありてあつらひつる 海ありてあつらひつる

いさうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
乃さうしと岩のさうしと岩のさうしと岩のさうし  
松花乃新 松花乃新 松花乃新 松花乃新

あしをたれぬとてしるしうの懺悔とる也  
あしを佛とてしるしうの懺悔とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也  
舟の念佛とる也

おれくらのてりてりて つるぬ海の小舟舟君よ見とらる也  
かりくらのあつてとりのくくらのあつて

舟舟君乃さぬ也人母志くまゆつてつるくくくく  
物くくくくくくく 尼君くくくくくくく

程乃始つてよ 兼奉乃さぬと志くせ始くくくくくく  
事乃くくくくくくく ぬくくくくくくく

山くくくくくくく 兼信部兼有しの又とりらてお君のあつ也  
是くくくくくくく 兼御せくくくくくく

と御乃信部のあつてくくくくくくく

又信部のあつてくくくくくくく

志れくくくくくくく 小君也 兼是 白氏文集

くくくくくくく 兼葉座 川座也 松田也 兼

くくくくくくく 兼兼外くくくくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

くくくくくくく 兼兼乃くくくくく

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
りいせん せんしとらふりやくらうて花とせんしとせ

とらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

一日乃出家ハチニチハチニチ 心地観経曰善男子及善

女人梵河釋多羅三藐三菩提心一日一夜出家修  
道二百万劫不堕恶趣常生善处受勝妙樂遇善知

識永不退轉得值諸佛受菩提記坐金剛座成正覺道  
一日一夜出家乃切他ハチニチハチニチ

てとせられし又善のりあつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

程そのもせも人 善しりふのしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ  
あつとせしとらふりやくらうて花とせんしとせ

舟母乃君見るつゝこころも大なり  
 物ゆいして、弟海心とあはれんくもはりしれり  
 ありて、つゝありて、舟母と、つゝありて、舟母と、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、

そのらと、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、

おろ、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、

中にと、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、

舟母乃君見るつゝこころも大なり  
 物ゆいして、弟海心とあはれんくもはりしれり  
 ありて、つゝありて、舟母と、つゝありて、舟母と、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、  
 つゝありて、つゝありて、つゝありて、つゝありて、

ゆきうりくもくも

尾尾丸

ひきくろく人かんの顯證人 又見所人 見證人

見遊人かろうあろうの人のいふことと申すに云く

れのと申すは 松尾の河と申すは力と申すは

かかれと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

かひと申すは 船と申すは 船と申すは 船と申すは

いづつ傍部と云ふゆへに大抵大受若くは人の若  
らうつらりあつて親善大士なりしを言ひしを  
月をこころとてつらうなりぬればかたよと  
いふはなれどつらうなりてこそ方のつら  
うなれどもこれと傍部と對してゆるといふ  
あさつてつらうなり世の受つらうなりと  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

人あつてつらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり  
つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

つらうなりとてつらうなりとてつらうなり

ふくめくあわゆ 海舟の心も是のうらやうにたを也

あつしこのまのり 松尾忠久 兼山居り 兼人  
これかまのりかまのり

ゆらゆらとまよふ 兼出夜のもり

つらつらとまよふ 兼蓬乃海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は

まよふとまよふ 兼海舟の心は





奧入云

此愚本求數多舊年跡之本抽彼是用捨短慮短及雖有碌磨之志未及九年之一毛并蛙之淺艾寧及哉只可拓朝唏魂雖有勛加事又是不足言未及尋得以前依不慮此本披露於

遊迹門々々

寫預誦謗之雖

後悔無詮懲前事每卷奧所注自僻案切出為別紙之間欵未多切矣——旁難堪耻辱之外無他向後可停止他見

非人來門明靜

私云此奧書有落字僻字等求證本追可糾正之

河海抄奧書云

此抄一部共卷年自今後合如覆勅畢可為治定之證

本要

儀同三司源判

抄出作者善成公也

花鳥餘情奧書云

愚應仁之亂初避上都暫寓九條之坊因敦之秋重起南京流卜十弓之地余來已歷五愁望空感双蓬髮遠倒之餘功夫之暇忘白乐天世俗文字過玩紫式部源氏物諸之詞篇々通至教之命脉句々貫和歌之骨髓於是每觀覽智新月感釋悟今是昨非逐挹河海之流盡真源於心底袖促花鳥使寫餘情於毫端也耳文明四年龜集壬辰除月上幹桃花居士七十一歲 誌要

弄花云

文明第 八仲夏初九入眼畢

從同年七月中旬迄 落字上旬見合物諸畢同九年二月

月重加點——私云合点畧之肖拍追聞書初聞之後十

四年

長亨三年季春中八於種玉受菴主說合点了  
一卷卜八文明第九宗祇法師本之不審同題後成恩寺  
禪園卷也 肖相寫本

一勅卜八文明十二庚子季春肖相尋申禪園

条々以彼自筆被注付勅載合点也自相菴至  
若菜下其外細碎同題本也

以上兩同卷花鳥未遂一覽之前欲仍彼抄之  
内不審亦有之

私今所写之者件兩同卷并追而用書一  
所書載之童稚之不審重說亦雖無益先本写置者也

右肖相老人用書借請之六月廿七日立筆連々忘忙八  
月十七日於其功七冊調之辭如一見了清書之抄物也

永正七年一記之

右御判道遠院也

又云此抄去六月下旬立筆今日終書功調而為七冊不

可他見而已

永正第七八月十七日

三条西

入道前内大臣

是七道遠也

三抄

奥書云

此用書

有趣注夢浮橋奥款

胸臆荒涼之談卒尔所注置

不可漏脱之处能列刺吏義流教寄深切之餘寄紙懇望  
間不權上書全部以附与之云云卷々予了加一見了稿宜  
令取捨不可被出深窓之外而已

大永戊子夏五下旬候

老比丘御判道遠院内府

同重奥書云

補名院右府也

以抄胸臆之談公條卿卒尔之用書也達先年能列  
刺吏之聽寄紙懇望不獲止字送之處不慮之災失却  
無念之由重而來命之間終書云云一見外題深老筆  
穴賢云云 可彼禁他見而已

年立奧書云

天文甲午曆冬至日

八旬老衲列 同上

源氏物語年立一冊者故禪定園下所製作也件正本在大  
大於於桃坊文庫為白波奪取畢爰經十年不慮感得之  
憚無物干取喻此一帖以彼真木加書寫者也末流布世間  
雖無意外感數奇之志付囑至金五說深秘箱底莫令  
他見

永正七載季夏中吉前傳陸叟御列

後成恩寺殿御息  
一条殿冬良公也



此光源氏物語者本朝風俗詭之為吟風弄月之提徑矣  
余先是時雖信三光院內府誦筵不祇畢功於全部  
以為遺憾焉而後謄寫河海花鳥餘情弄花木之諸抄  
然以其繁多而不便一覽雖校正之期於一在微臣  
之列未暇仕官羅網南玄北來無得閑暇罕思而止而已  
矣茲幸也足軒主素然老人以余有識荊之素癖適  
飯隱酒邦丹之後列老人也種姓不凡才識高明寔  
時名流也加猶親炙三光內府執侍講惟定此物諸之  
奧旨依之就老人求果余素願於是老人忽感其志考  
之諸抄般繁者莫訛者正缺者補互有得失者兩存之十  
稔之間雪纂露抄畢五十五帖可謂集大成也乃題以  
岷江入楚夫古云墨秦山硯楚江紙乾坤今併案此物  
豈多讓哉此所謂入楚無底者老人之硯滴者也

昔慶長身三歲在戊戌星夕之日誌焉

函齋叟玄旨

